

HADANO MEISUI

ROTARY CLUB WEEKLY

例会場 秦野市平沢 2550-1 秦野商工会議所内 TEL(0463)81-1355

事務所 秦野市平沢 2550-1 秦野商工会議所内 TEL(0463)81-1355

例会日 毎週木曜日 12時30分～13時30分

会長 桐山晃忠 幹事 飯田隆明 会報委員長 梅原正美



ロータリーを實踐し、 みんなに豊かな人生を

2013年～2014年度国際ロータリー会長
ロン D・パートン

第1384回例会 2014年4月3日(木)(雨)

司会 諸星道治副幹事

点鐘 桐山晃忠会長

合唱 「君が代」「奉仕の理想」(酒井健一君)

ビジター紹介 アルタナ・ゴウさん(青少年交換学生)

祝誕生記念日 <ご主人>北村さん(4/2)

祝創業記念日 安部君(4/1) 岩本君(4/1) 佐藤さん(4/1)

会長の時間

- 青少年交換学生のアルタナ・ゴウさんのホストファミリーが変更になりました。
4/6より 高橋幸雄君
※帰国 4/24(土) 成田 10:50発
例会日(移動例会)です。理事会で送る人を決めたいと思います。

- 秦野中RC会員、山口恭弘君のご母堂の逝去の連絡がありました。

- ガバナー事務所より
2014-15年度地区委員就任のお知らせ
・クラブ奉仕委員会委員 瀬戸 誠君

- ◎ アルタナ・ゴウさん挨拶
みなさん、こんにちは。日本の桜はとても美しいです。

友達とお花見をしてお弁当を食べましたが、映画のワンシーンのようでした。3月には沖縄へ行ってきました。昨日は「箱根富士屋ホテル」の例会に出席し、寄木細工のお土産を頂きました。4月に帰国します。



幹事報告

[例会変更] 秦野中

スマイル報告

- 桐山晃忠君 「スマイルします」
- 飯田隆明君 「スマイルします」
- 諸星道治君 「4/20地区研修協議会です。出席義務

会員数	42名
出席数	34名
出席率	80.95%
前々回の修正	100%

メイクアップ	[事前] 原君 古谷さん(地区)

本日のプログラム	4月10日
	○ 花見例会・アルタナ送別会 点鐘 17:00

次週のプログラム	4月17日
	○ 移動例会 研修会 於 箱根湯本 富士屋ホテル 点鐘 15:30

者は必ず出席をお願いします」

- 木村眞澄さん 「3/29(土)の芝桜の草取り、ご協力ありがとうございました」
- 安部信三君 「創業記念日のお祝い、ありがとうございます」
- 岩本英貴君 「お久しぶりです。スマイルします。創業記念のお祝い、ありがとうございます」
- 佐藤利枝さん 「創業記念のお祝い、ありがとうございます」
- 酒井健一君 「桜は満開です。財布の中も満開です」
- 高橋幸雄君 「3/29、アルタナと共に東島さんの宝蓮寺に伺い、お手前と香等を楽しませて頂き、また、大日堂の見学をさせていただきました。日本文化に触れる大事な一日になりました。感謝致します」
- 淵脇美代子さん 「アルタナ・ゴウさん、早いものでもうそろそろお別れですね。4/10の送別会、出席できなくてごめんなさい。残り少ない日本、名水ロータリーを楽しんで下さい」
- 鈴木和夫君 「スマイルします」

合計 82,000 円

委員会報告

- 諸星道治副幹事
4/20(日) 地区研修協議会への出席について
於 東海大学
出席義務者 16名
当日はマイクロ組(食事を共に)
直行組(食事は各自)
12:00 東海大学正門前で合流
- 親睦活動委員会
 - ① 加藤一也委員長
「花見・送別会」について
日時 4/10(木) 17:00点鐘
場所 秦野商工会議所
 - ② 梅原正美副委員長
「研修会」について
日程 4/17(木) 18(金)(一泊)
場所 箱根湯本「富士屋ホテル」
内容 14:30~15:30 次年度理事役員会
15:00~ 会員受付
15:30~ 点鐘 例会、研修会
18:00~ 親睦会
- ※1、親睦活動委員は14:30 集合
2、出欠は4/10で締切ります。
宿泊するか等、記入して下さい。

- 社会奉仕委員会 木村眞澄委員長
3/29(土)に芝桜の手入れにご参加の皆様、お疲れさまでした。
次回の芝桜の手入れ(植え付け)
日時 4/12(土)13:00~
※担当者の方以外でもご協力出来る方は、宜しく
お願い致します。
- 職業奉仕委員会 山本裕宣委員長
「西部総合職業技術校(かなテクカレッジ西部)見学について」(移動例会)
日時 4/24(木)
12:00 点鐘
例会後、昼食、概要説明を受け校内見学
14:10 質疑応答 解散
※出欠を4/11(金)までにお願ひ致します。
- ゴルフ同好会 諸星道治君
「同好会コンペ」開催のお知らせ
日程 4/9(水) 8:30集合
場所 東京カントリークラブ
※競技終了後、表彰式、懇親会を行います。

卓話

「職業奉仕とは」

酒井健一君



職業奉仕とは、事業、および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践して行く、という目的を持つものである。会員はロータリーの理念に従って、自分自身を律し、事業を行う。

◆ロータリーの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 1、すべての行動と活動において、高潔性という中核的価値観の模範を示す事。

- 2、 職業の経験と才能をロータリーの奉仕に生かす事。
- 3、 高い倫理基準を奨励し、助長しながら個人的活動及び事業と専門職における活動の全てを倫理的に行う事。
- 4、 他社との取引の全てにおいて公正に努め、同じ人間としての尊重の念を持って接する事。
- 5、 社会に役立つ全ての仕事に対する認識と敬意の念を推進する事。
- 6、 若い人々に機会を開き、他者の特別なニーズに応え、地域社会の生活の質を高めるために自らの職業的才能をささげる事。
- 7、 ロータリー及びロータリアンから託される信頼を大切にし、ロータリーやロータリアンの評判を落としたり、不利になるような事はしない事。
- 8、 事業または専門職上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を同輩ロータリアンに求めない事。

職業奉仕に関する詳細は「職業奉仕入門」(255)を参照の事。

私は税理士をしております。税理士会として毎年確定申告時期に納税者の皆さんに無料相談をしております。全員が2日以上相当する事を義務付けられております。申告書を作成して、納税が出来るまでの指導をします。私は当然のごとく、税務署の手伝い、もっと考えれば国の為になっている事だと思っていました。ところが、納税者から見れば、ほとんどの方は出来ないで、終わると必ず「ありがとうございました」とお礼を言って帰られます。納税者の方々にも役に立っているんだと気が付きました。今の相談方法は昔と違い、全て我々が申告書を作成するのではなく、納税者自身に作成して頂き、そのお手伝いをする方向に変わっております。最初は納税者の皆さんは不安でいっぱいでした。まず最初の年は全て作成してあげます。次の年には一緒にします。そして次の年には自分で作成してきてもらい、違っている箇所を説明します。次の年には完全に書いてこられます。今までは税金を取られるものと思っておられたのが、自分から払うという思いが変わって、我々の所には来ないで、受付で終わり、颯爽と帰って行かれました。ここにおられる皆さんもそれぞれの分野でのプロであり、それが大いに役に立っているはずで、それが職業奉仕ではないでしょうか。

私も昔は地域で職人さんと呼ばれる方を表彰してあげる事が職業奉仕だと思っていましたが、それは社会奉仕だと言われました。職業奉仕とは、を復唱します。

ロータリーの最初の取り決めは一業種一人であり、会員相互の互惠取引が盛んで、入会すれば必ず事業が拡大し金

持ちになれると言われていました。それから社会的に何もしない団体に将来性がないという考えが変わって行きました。

次にいくつかのクラブの事例を紹介します。

被災地復興事業の相馬焼の工房を見学

早朝座禅会(会員の寺で)

会員の職場訪問 他の職場訪問

国会等見学(自己研鑽)

卓話をお願いする

各奉仕事業と連携

クラブが行う活動例として、就職相談等、優良従業員表彰、職場見学等、これは本来の職業奉仕の概念とは大きくかけ離れた次元の活動といえましょう。

ロータリークラブが行う役割は、会員に職業奉仕の心を育み、職業モラルを高めるための方策を考え、実施する事でありましょう。

◆職業奉仕に関する声明

職業奉仕とはあらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を活かしていく事をロータリーが育成、支援する方法である。職業奉仕の理想に本来込められているものは次のものである。

- 1、 あらゆる職業において最も高度の道徳的水準を守り、推進する事。その中には雇い主、従業員、同僚への誠実、忠実さ、また、この人たちや同業者、一般の人々、職業上の知己すべての公正な取り扱いも含まれる。
- 2、 自己の職業または、ロータリアンの携わる職業のみならず、あらゆる有用な職業の社会に対する価値を認める事。
- 3、 自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てる事。

職業奉仕は、ロータリークラブとクラブ会員両方の責務である。クラブの役割はたびたび職業奉仕を実践して見せる事によって、また、クラブ自身の行動に職業奉仕を活かすことによって、模範となる実例を示すことによって、さらに、クラブ会員が自己の職業上の手腕を発揮できるようなプロジェクトを開発する事によって、目標を实践、奨励する事である。クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って、自らと自分の職業を律し、あわせてクラブが開発したプロジェクトに応える事である。

(1987年R I 理事会)